

JENESYS 2.0 東ティモールへの高校生の派遣 派遣日程 平成 26 年 3 月 17 日（火）～3 月 26 日（水）

1. プログラム概要

本事業は「JENESYS2.0」の一環として、日本の高校生 22 名が東ティモールを訪問し、3 月 17 日から 3 月 26 日までの 8 泊 10 日の日程でプログラムを実施しました。

派遣団は学校交流時におけるプレゼンテーションを通じ、「食」「音楽」「踊り」「和の心」などの日本の魅力を発信し、その後のホームビジットではグループで現地家庭を訪問し、相互理解を深めました。また現地で活動している NGO の初等教育現場における衛生活動視察や青年海外協力隊員の活動見学および隊員たちとの交流会を通し、国際社会で活躍するための視野を広げるきっかけとしました。更に東ティモール理解の一助として、近郊の村に残存する祖先崇拝の儀式を見学しました。最終日の報告会では派遣国で学んだことを発表し、現地参加者との活発な意見交換を行いました。

2. 参加校・人数

岩手県立水沢高等学校 24 名（うち、引率教員 2 名）

3. 訪問地域

ディリ県

4. プログラム目的

将来を担う青少年が本派遣プログラムを通じ、主に同世代との交流を通じ、両国の友情を育み、また、派遣国において、日本の先端技術・製品、ものづくり、自然、伝統文化、ポップカルチャー等のクールジャパンを含めた日本の強みや魅力等の日本ブランド、日本的な「価値」を積極的に発信し、派遣国の人々の対日理解を深め、日本への潜在的な関心を増進させること、ひいては、日本を訪れる外国人旅行者数の増大を図り、日本経済再生への足がかりとすることを目的とする。

5. 日程

3 月 18 日（火）

プレジデnte・ニコラウ・ロバト国際空港から入国、市内視察。

3 月 19 日（水）

日本国大使館訪問、招へい者との交流会、ディリ県の ODA サイト視察。

3 月 20 日（木）

ディリ県内の高校訪問。

3 月 21 日（金）

ディリ県内の高校訪問。

3月22日（土）

ホームビジット対面式、ホストファミリーと交流。

3月23日（日）

ディリ県のボゴロ村訪問、青年海外協力隊員と交流、タイスマーケット、ティモールプ
ラザ見学。

3月24日（月）

ディリ県のNGO 衛生指導活動を見学、大統領府見学、ワークショップ。

3月25日（火）

報告会、プレジデンテ・ニコラウ・ロバト国際空港から出国。

6. 写真



3/19 日本国大使館での歓迎レセプション

Welcome Reception at Embassy of JAPAN
with ex participant of Jenesys Program



3/19 国立 リハビリテーションセンター訪問
(ベコラ)

Visit to National Rehabilitation Center for
disabled People in Becora



3/20 学校交流：カノッサ高校

School Exchange Program at Canossa Senior
High School



3/20 学校交流：カノッサ高校

School Exchange Program at Canossa Senior
High School



3/21 学校交流：セントピーター高校

School Exchange Program at St.Peter Senior
High School



3/21 学校交流：セントピーター高校

School Exchange Program at St.Peter Senior
High School

	
3/22 ホームビジット	3/23 文化体験：宗教儀式見学（ボゴロ村）
HOME VISIT with Host Family	Observation of Ritual Ceremony in BOGORO Village
	
3/23 市内視察：タイスマーケット見学	3/24 NGO 団体訪問：衛生指導見学（E. B. C. ダルラウ学校・NGO シェア）
Visit to Tais Market	Sanitary Education at E.B.C in Darelau
	
3/24 大統領府見学	3/25 報告会
Visit to Presidential Palace	Presentation Meeting / Culture Group

7. 参加者の感想

・個人的に印象に残ったのは日本文化がすでに広まっていたことでした。ホームビジットや学校では日本のアニメが好きな人が多く、中には私に日本のアニメ風に似顔絵を描いて欲しいという人もいました。帰国後もツイッターやラインに登録してくれた人がいたのでそれを通じて会話しています。今回のプロジェクトで日本文化を更に伝えることができたので、東ティモールには更に日本文化が広がっていくと思います。これから日本は東ティモールに限らず、様々な国に文化を発信していく必要があります。

・東ティモールはこれからの成長が見込める国であるように思う。国民性に加え、経済成長を見せている ASEAN 諸国に地理的に近く、有利である。日本は今後東ティモールとの経済的交流を深めるべきであり、それがより日本の発展につながるだろう。人間的にも経済的にも東ティモールはこれからの日本の強力なパートナーとなりうる国であることを伝えたい。

・東ティモールについて私が発信したいことは伝統的な文化と人の良さです。日本ではないような踊り、みんなで手をつないで踊ると心が通じ合いすぐに仲良しになれたと感じます。周りの人と助け合い、思いやりがある人たちがたくさんいるティモールという国をもっと多くの人に知ってほしいので私ができることをこれからはしていきたいです。

・学校交流で日本の食事についてのプレゼンテーションをした時、「これは何の魚？食べられるの？」と、日本食に興味を示してくれたこと、また、日本語についても「この言葉は日本語で何と言うの？」など、日本へ関心が向けられたことに嬉しさを感じました。ホストファミリーに「若い内に沢山勉強して、沢山の経験をしなさい」と言われた様に、勉強も部活動も何でも積極性を持って沢山経験し、言葉の壁を破り、どこの国でも通じる人間になりたいと思います。